

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里 桜丘		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80-74		
自己評価作成日	平成23年3月9日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>原則や決まりごとをみだりに作るのではなく、一人ひとりが自由でありのままに過ごせることを心がけています。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800259&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム ほのかの里桜丘」はJR駅から車で5分の場所に位置し、近くには大きな公園やホームセンター、スーパーマーケットがあるなど便利な環境にある。平屋建ての瀟洒な建物の広い庭には東屋があり、天候の良い日には利用者が日向ぼっこや外気浴を楽しむことができる。建物内部は広くて窓が大きく、採光も十分である。トイレや浴室、洗面台などが広くて使い易く段差もほとんどなく設備が整っている。介護度の高い利用者が多いが、利用開始前からの馴染みの関係が継続できるように、行き付けの理美容院に訪問理美容を事業所でお願したり、札幌市や岩見沢市など遠方の医療機関への通院支援を行うなどきめ細かいケアが行われている。食事や入浴、排泄、外出など、2人介助や車椅子対応が多く職員の負担も重いが、せかすことなく十分時間をかけて優しく言葉をかけながら接している。職員同士の連携が強く、家族とのコミュニケーションも良好であり、家族の信頼は厚い、町の担当者との協力関係も良好で、今年3月の東日本大震災を受けて、運営法人で震災時の高齢者受け入れの相談も受けている。事業所の災害対策用の備品なども保管場所を数ヶ所確保し、十分な量を準備するなど安全への意識も高い。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの運営理念はゆったりと楽しく自由にありのままに「暮らしの喜びと自信を」「いつも笑顔で」を掲げております。	運営理念は居間の目立つ場所に掲げられ、職員は理念を意識して日々のケアを行っている。一方、地域密着型サービスの意義や役割を意識し確認できる内容の取り組みについては十分ではない。	運営理念に加えて、職員全員で話し合い、地域密着を意識したケア理念を作り上げることを期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶や夏祭りなどを通じて行なっています。	町内会行事への参加は少ないが、運営法人が主催する夏祭りに町内やボランティアの方々に参加してもらっている。毎日の散歩の時には近所の方と挨拶を交わし、時にはお花をもらっている。避難訓練にも近所の方々に参加してもらっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会があれば、地域の人たちに必要な情報を伝えていけたらと思う。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に2回程度行なっていますがなかなか回数増加に至っておりません。	運営推進会議は今年度は2回開催し、町の福祉部や町内会、近所の方々、家族代表等が参加し、夏祭りや避難訓練などについて意見交換したが、サービス評価についての報告や話し合いは行われていない。また、議事録の整備も十分とは言えない。	運営推進会議の回数年6回を目標に少しでも増加させ、サービス評価も議題に取り上げていくことを期待したい。また、議事録の整備も期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂くほか、情報開示の際はご指導いただきました。	町の担当者から、今年3月の東日本大震災を受けて、運営法人で震災時の高齢者の受け入れを相談されている。また現在、医療連携体制を検討しているので、メールや電話で頻りに町の担当者に相談している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げると共に、拘束しない様、配慮しております。	身体拘束排除マニュアルが整備されており、職員は法人主催の合同研修で身体拘束について学習している。玄関は、日中は施錠せずセンサーで人の出入りが分かるようになっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、学ぶと共に注意・防止に努めております。		

グループホーム ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行なっていません。学習会の検討をしております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム管理者、総合施設長がいつでも対応しており、それらを運営にも反映させております。	家族が頻繁に事業所を訪問しているため、意見を聞いたり相談にのったりしている。今年度は個別のお便りの回数を増加させ行事の写真も取り入れるなど多くの情報を反映させている。遠方で訪問回数が少ない家族には、別途に手書きの手紙を出して利用者の状況を伝えている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人一人の提案を反映できる職場づくりを目指している。	定例会議は特に設けていないが、職員は何か意見があればその都度管理者に話をしている。法人間の定期異動はなく、勤務体制も職員の希望を聞いている。一方、自己評価の作成については、職員は直接関わっていない。	自己評価を職員全員で話し合い、課題を検討し目標達成について話し合うことで、更に職員の意見を運営に反映させていけるような取り組みに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分に整備されていると思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会がその都度与えられ、職場に生かすことが出来ている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際などに交流する機会はあった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	努めております。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	努めております。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	必要に応じて調整しております。		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	人生の大先輩をお世話させていただいているという考え方に立ち、関係を築いております。		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	関係を築いております。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	馴染みの方、ご家族がホームを訪れております。	利用者の友人が事業所を訪問してくれる際にはお菓子やお茶を提供し、ゆっくりできる場所で話をしてもらっている。また、法人に理容師の資格を持った職員がおり定期的に散髪に来てくれるが、馴染みの理美容院を希望する利用者には家族が連れて行ったり、訪問理美容をお願いしたりしている。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	努めております。		

グループホーム ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大切にしております。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	配慮しております。	職員は表現が困難な利用者の思いや意向を表情やしぐさ、家族との会話から把握するように努めている。利用開始時に家族や医療機関などからの情報を基に基本情報や課題分析シートを作成しているが、生活情報がやや不足している。	利用開始時の家族等からの情報に加えて、開始後に知り得た情報、特に生活情報を蓄積し、必要な情報は介護計画に反映できるような取り組みに期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めております。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成しております。	利用開始後1週間位で暫定介護計画を作成し、1ヶ月から3ヶ月で本介護計画を作成している。その後はケース担当者会議にて全職員で検討し、3ヶ月毎に見直している。介護計画書は家族に説明し、同意書に署名捺印を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として個別に残し介護計画に活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診のつきそい等、柔軟に取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お一人おひとりに丁寧に支援していると考えております。	利用者は全員が希望の医療機関を受診している。札幌市や岩見沢市など遠方の医療機関を受診する利用者もいるが、事業所ではほぼ全員の通院支援をしている。医療情報は介護記録や業務日誌に記録し、家族と共有している。	

グループホーム ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師に相談しております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行なっています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療処置が必要になるまでは介護しています。	現状は看取りは行わない方針であり、利用者・家族等には重度化した場合の対応を含めて口頭で説明し納得してもらっているが、介護度の高い利用者が多くなってきたことから医療連携体制を考慮中であり、主治医や訪問看護師との業務委託について相談している。	次年度には医療連携を実施する前提で計画を進めているので、計画が実施された段階で「重度化・終末期についての指針」を作成し、文書で利用者・家族等に説明できるような取り組みに期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、訓練を行なっています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通して地域のかたにも協力して頂いています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署や地域の方々の協力を得て実施している。法人が主催する救急救命訓練にも毎年職員が参加している。災害時の備品などは安全な場所を数ヶ所確保し、十分な量を準備している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人、おひとりに十分に配慮をして対応させて頂いております。	施設長は利用者を尊重した言葉遣いを常に指導し、職員は利用者の名前を「さん」付けで呼び、プライバシーに配慮して対応している。記録する時も他者に見えないように注意し、個人情報などは事務所に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化が進んでおりますが御本人の思いを汲み取るよう努めております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	充分配慮し、支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めております。		

グループホーム ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備などをしていただいています。	本部からの献立を見て職員は毎日食材を調達しているが、内容を変更することもある。車椅子を使用している利用者が多いので、座って簡単な調理の下拵えに参加している。食事中は約半数の利用者が全介助のため、職員は会話を交わしながら食事を介助し、時間をずらして同じものを食べている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後チェックをしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、随時トイレへ誘導しています。	排泄記録で詳細にチェックし、パターンに沿って全員のトイレ誘導を行い、失禁がないようにこまめにチェックして排泄の自立に努めている。トイレへの声かけをさり気なく行い、失敗時には周囲に分からないように羞恥心に配慮し対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいます。下剤の調整など。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は日曜日によって入浴日が定められておりますが、通院や体調、本人の意向によって調整しています。	日曜日を除き、午後から入浴を実施し基本的には一人週2回以上とし、入浴を嫌がる利用者も声かけの工夫や曜日をずらして週2回入浴してもらっている。介護度が高い利用者が多いことから、ほぼ全員が2人介助の支援になっている。入浴剤を入れて保湿性にも注意している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援しています。		

グループホーム ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援しています。	暖かい時期には天候を見て住宅街を一周したり、事業所前の東屋まで行き散歩を楽しんでいる。また、近くの公園や商業施設に、車椅子使用の利用者も含めて交代で車で出かけている。遠方のドライブ、お花見、紅葉狩りなどの外出行事も楽しんでいる。冬季でも月1回は車で外出や通院で外出の機会がある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持つてはおりませんが、対象の方がご入居されたならば支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。	食堂兼居間は明るく広々としており、ソファに座って大きな窓から外の景色を眺めてゆったりと過ごせるよう落ち着いた雰囲気作りが為されている。壁には行事の写真や貼り絵、風景画を飾り、観葉植物を置き、数台の加湿器で温・湿度を調整し、居心地のよい環境を整えている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。	各居室には、ベッド、ロッカー、カーテン、パイプ式の洋服掛けなどを事業所で用意している。使い慣れた整理ダンス、座椅子、小物入れなどを持ち込み、塗り絵の作品やお気に入りの歌手の写真を壁いっぱい貼ってあるなど、その人らしい居室作りになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を使用して工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 ほのかの里 桜丘作成日: 平成 23年 4月 7日市町村受理日: 平成 23年 4月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義や役割を意識し、確認できる内容については十分ではない。	運営理念に加えて、地域密着を意識したケア理念を作り上げる。	現在の理念に「地域とともに」を追加して取り組んでいく。	即日
2	4	運営推進会議は今年度は2回開催し、町の福祉部や町内会、近所の方々、家族の代表などが参加し夏祭りや避難訓練などについて意見交換したが、サービス評価についての報告や話し合いは行われていない。また、開催数が少なく、議事録の整備も十分とはいえない。	議事録を整備し、年6回を目標に少しでも増加させる。	議事録を整備し、年6回を目標に少しでも増加させる。また、サービス評価を議題として取り上げていく。	1年
3	11	自己評価の作成に職員は直接かかわっていない。	職員全体で話し合い、意見を運営に反映させていく。	自己評価の資料を全員に配布し、職員の意見を取り入れた評価を作成する。	1年
4	23	利用者の生活情報がやや不足している。	十分な生活情報を収集する。	家族からの情報に加えて、サービス開始後に知りえた情報を蓄積し、介護計画に反映させていく。	1年
5	33	現状では看取りは行わない方針であり、利用者・家族などには重度化した場合の対応を含めて口頭で説明し、納得を得ているが、介護度の高い利用者が多くなってきていることから、医療連携体制を考慮中であり、主治医や訪問看護との業務委託について検討している。	「重度化・終末期についての指針」を作成し文章で利用者・家族等に説明できる様にする。	医療連携を実施する前提で計画を進めているので、計画が実施された段階で「重度化・終末期についての指針」を作成する。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。